

新Profit 計画の概要(1)

2003年 3月26日



東急建設株式会社

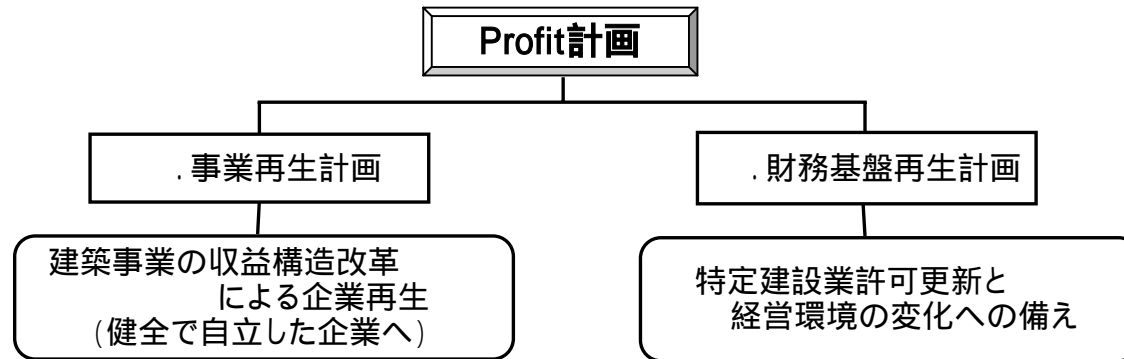
目 次

1. 計画策定の経緯 - Profit計画から新Profit計画へ	1
2. 会社分割スキームの概要	2
3. 建設事業会社の事業計画	
(1) 計画概要	3
(2) 受注・完成工事高・利益率[単体]	4
4. 不動産事業会社の事業計画	5



1. 計画策定の経緯 - Profit計画から新Profit計画へ

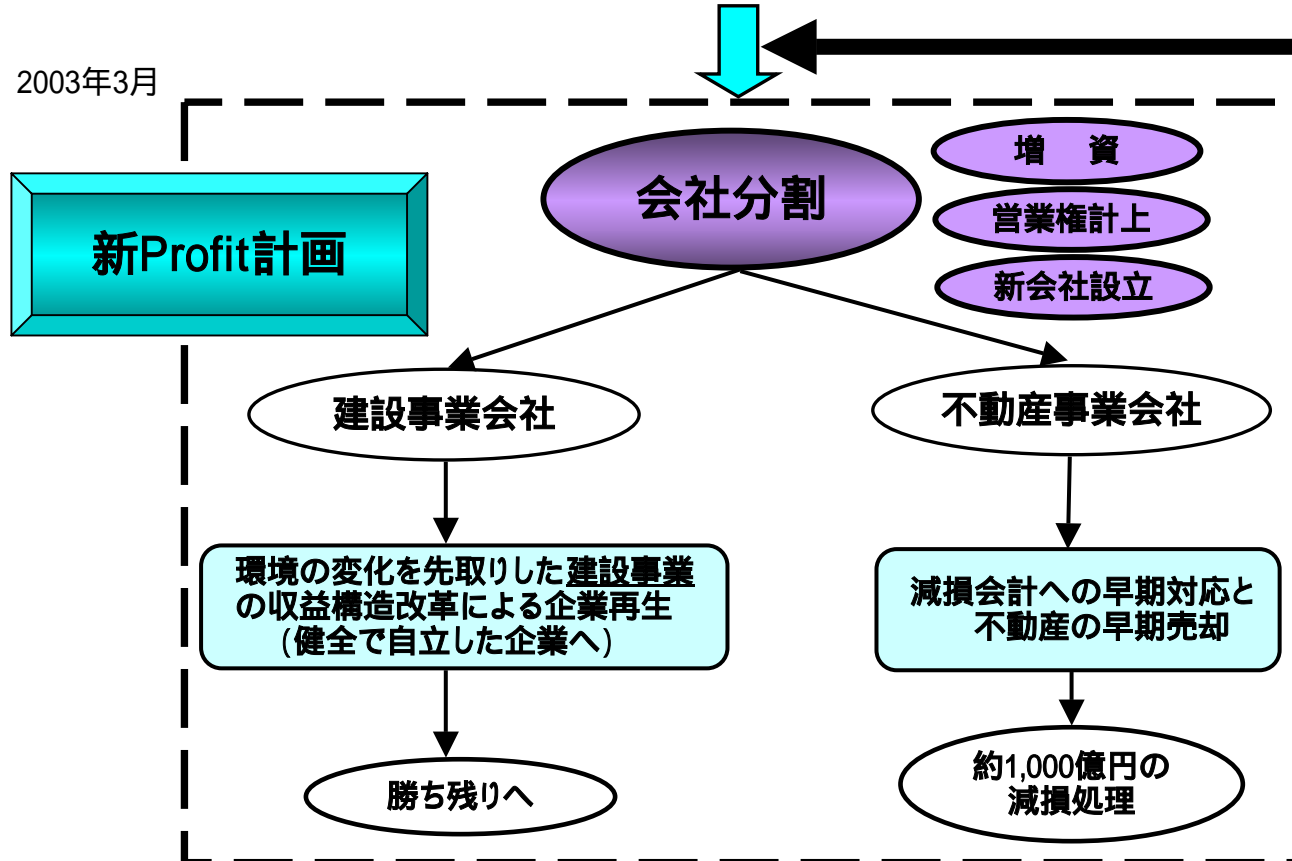
2002年2月



Profit計画達成事項
 経常利益の確保
 低採算工事の徹底排除
 人員削減

Profit計画未達事項
 受注高の確保
 不動産売却による資金・利益の確保
 受注時利益率の確保

2003年3月



東急建設を取り巻く環境の変化
 減損会計制度導入への対応
 過剰債務による信用不安
 建設業界の再編・淘汰の動き
 市場環境の一層の悪化
 ・公共工事の削減
 ・不況による民間設備投資の減少

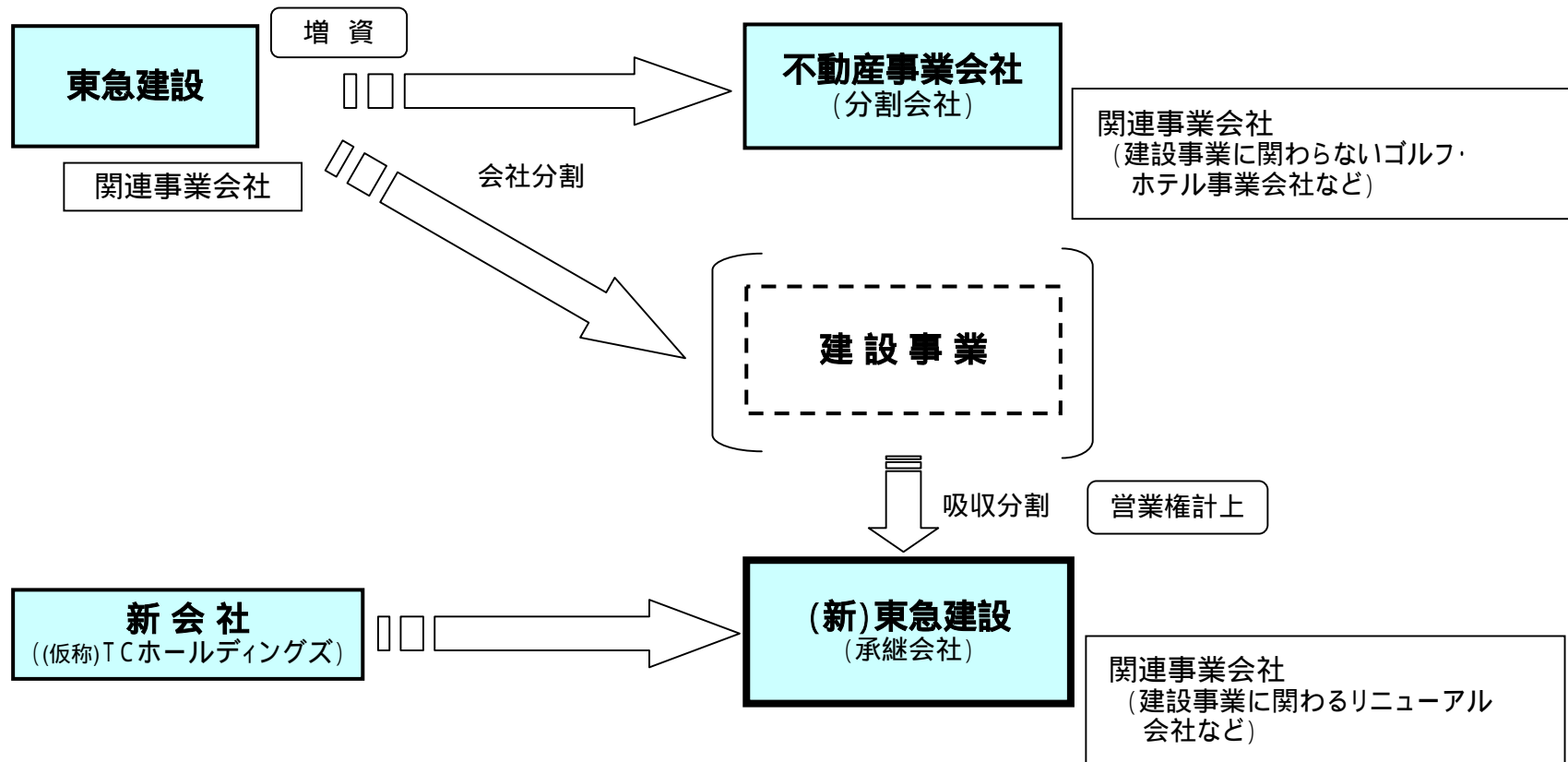
新Profit計画



2. 会社分割スキームの概要

会社分割による抜本的な新生スキーム

新会社を設立し、吸収分割により建設事業を承継すると共に、(新)東急建設として上場会社となる(上場継続)
(新)東急建設は、建設事業で安定した利益を確保し、健全で自立した企業になる
不動産事業会社が分割会社となり、資産を早期に売却して借入金を返済する
関連事業会社は、投資(所有)価値の判断で、所有・売却・清算などを決定する





(1) 計画概要

経営方針

a. 企業ビジョン [2010年の東急建設の企業像、戦略目標]

投資家満足、顧客満足、社員満足の3つの指標で、斯界の最高水準を実現する

斯界(しかい): 従来の慣習や仕事のやり方に囚われない新しい価値を創出する新しい建設業界

b. 基本戦略

環境の変化を先取りした建設事業の収益構造改革による企業再生(健全で自立した企業へ)

c. 基本方針

1. 2003年10月1日に上場する

2. キャッシュフロー経営の更なる推進を図る

3. 建設業本業で企業価値の最大化を図る

個別戦略の要点

1. 当社受注の70%を占める首都圏に経営資源を集中(非効率な地方支店・営業所・海外拠点からの撤退)

2. 得意分野である鉄道(東急電鉄、JR、民鉄)工事に注力

3. 当社利益の90%強を占める上位20%のロイヤルカスタマーへ営業力集中

4. マンション(老朽化マンションの建替え含む)、戸建など住環境創造事業に注力

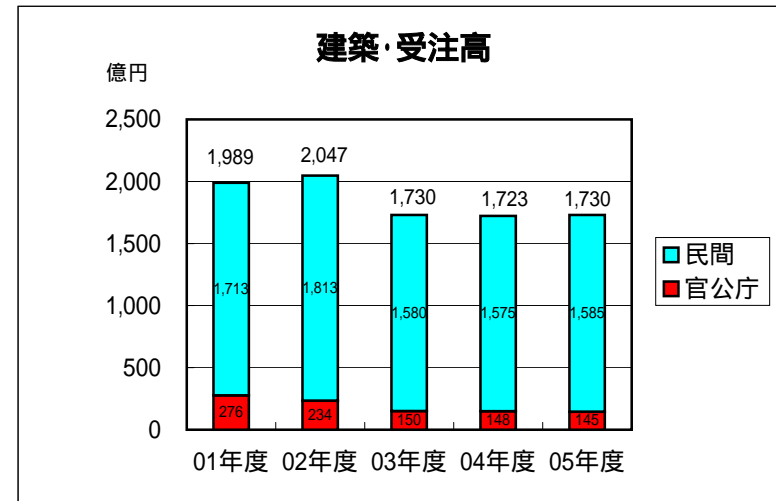
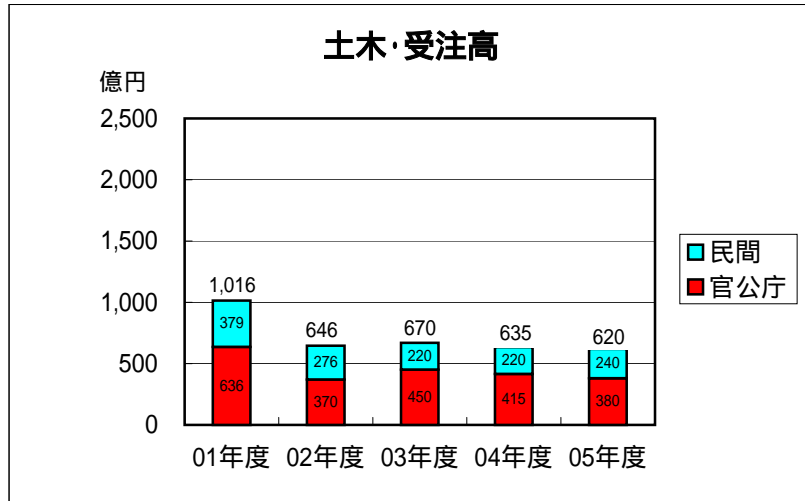
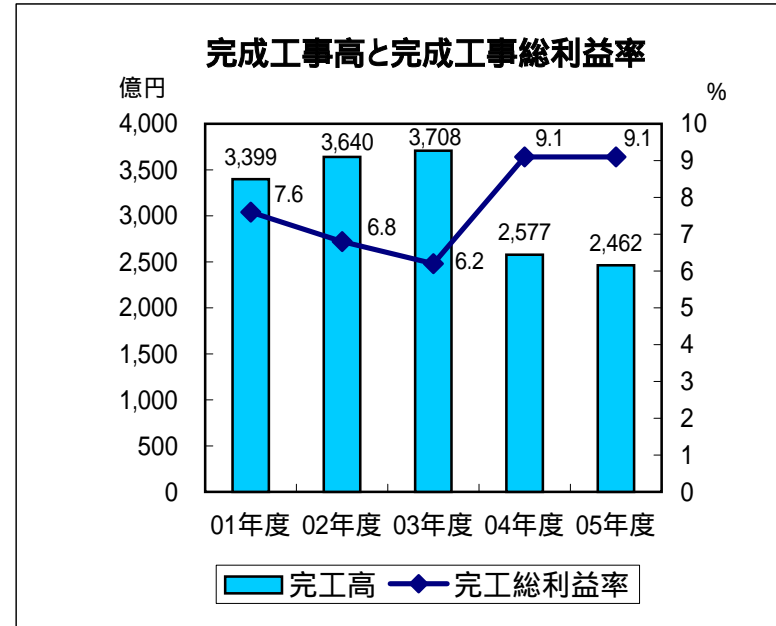
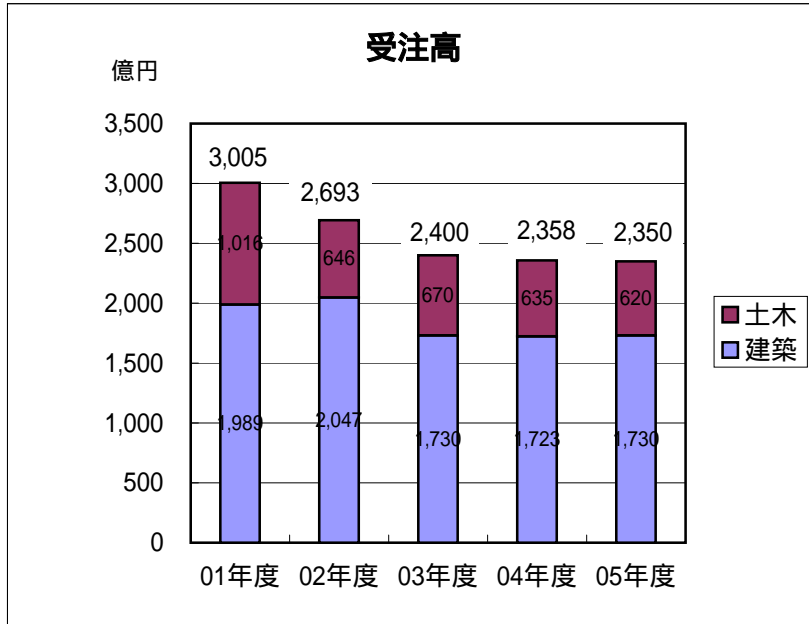
5. リニューアルは、首都圏に注力

6. 人員削減を実施(3年間で300人、初年度で240人)



3. 建設事業会社の事業計画－(2)

(2) 受注・完成工事高・利益率[単体]





4. 不動産事業会社の事業計画

経営方針

減損会計への早期対応：2004年3月期に約1,000億円の減損処理

保有資産の早期売却による借入金の返済

関連事業会社の整理・再編